聴覚障がい教育支援情報紙
みみネット
No360　令和８年１月23日
発行：大阪府立中央聴覚支援学校
聴覚支援センター

-Index-

紙上報告「第 14 回みみネットアカデミー」
デフリンピック観戦記
手話リンク、Deaf VR の紹介
チャレンジ！発音指導㉖（サ行音）

紙上報告

第14回　みみネット　アカデミー

令和７年 12 月 25 日（木）に、本校主催の研修会「第１４回みみネットアカデミー」を開催しました。参加者のアンケートとともに、研修会の概要を報告します。

Lesson１「子どもと保護者の心に寄り添う早期教育相談」

講師：本校幼稚部早期教育担当教諭　只腰　祥

新生児聴覚スクリーニングで「きこえていないかもしれない」と告げられた保護者の驚きと戸惑い、不安といったさまざまな心の揺れ、それをどう受け止め、支援につなげていけるか、子どもや保護者の心の動きに寄り添いながら、難聴児と保護者を支える早期教育相談の大切さについてお話ししました

参加者の感想

・早期教育というものを初めて知った。保護者にとって不安を安心に変えてくれる大切な役割だと感じた。
・母のケアも大切だと思った。「親が勇気を出して電話をかけてきてくれている」お母さんの思いを前提に否定しないことや別の言い回しをするなど､自分は子どもに目を向けがちだったが親の頑張りをほめるなどはどんな時でも大切だと改めて感じた。
・子供の成長を介して、先生方と保護者が築き上げてきた信頼関係の積み重ねを小学校での指導の参考にしていきたい。
・早期教育相談を含めたろう教育のシステムを知ることができた。

Lesson２「私の経験から学んだこと、聴覚支援学校高等部について知っていただきたいこと」

講師：本校高等部首席　上田　章昌

講師のこれまでの経験（知的障がいの支援学校（小学部、高等部）、エンパワメントスクール（高等学校全日制）、聴覚支援学校（高等部）） での気づきや学び、そしてそれを踏まえて今も大切にしていることについて、本校高等部と高等学校の違いや生徒が抱える悩み、それに対する取り組みなどをご紹介しました。

参加者の感想

・支援学校高等部と高等学校で卒業資格に大きな差はないこと、支援学校高等部の強みを知ることができた。難聴児が社会に出た時の困り感は、想像していたが改めて考えることができた。
・児童生徒が学びに向き合えるように大切な基本的なこと（実は意識しないと難しいもの）や、高等部卒業後の課題など聴覚障がいならではのことを知れた。
・上田先生のご経験から学んだことを知れて、生徒たちだけでなく社会でとても大切なことを学んだ。様々な学校を経験されたからこその話を聞けて良かった。社会に出てからの悩みや難しさを知れて担当生徒に身に着けて欲しい力が具体的にイメージできた。
・経験から学んだことを分かりやすく伝えていただき良かった。経験に勝るものはないと感じた。３学期以降も今日の話を思い出しながら子どもたちに大きな愛でかかわりたい。

ご参加およびアンケートへのご協力、ありがとうございました！

来年度の本校主催の研修会について

本校では、これまで夏に２つの研修会、冬に「みみネットアカデミー」を開催し、多くの先生方にご参加いただいてきました。特に夏の研修会は今年で 25 回目を迎え、長年にわたり先生方が積極的に学び、交流を深めてくださったことが、現場での実践や子どもたちの成長を支える大きな力となってきました。

来年度からは研修会をさらに進化させ、**春・夏・冬の年３回、集合型とオンデマンド配信を組み合わせた新しい形で実施する準備を進めています**。より多様なニーズに応え、学びの機会を広げることを目指しています。詳細は、来年度４月号でお知らせします。

来年度もたくさんのご参加をお待ちしています！

＜デフリンピック観戦記＞

前号でも紹介しましたが、11 月 26 日、東京 2025 デフリンピックが閉会しました。

デフリンピックでは、聴覚支援学校を卒業した選手、地域の学校を卒業した選手、そして現在、聴覚支援学校や地域の学校に在籍している選手など、異なる学びの場で育ったきこえない選手たちが活躍しました。育ってきた環境や歩んできた道は違っていても、「きこえない／きこえにくい」という共通点を持つ仲間が、それぞれ努力を重ね、同じ舞台で力を発揮したことは、何よりも素晴らしいことだと感じます。

本校中学部３年生は、修学旅行でデフリンピックを観戦しました。その際に感じたことを、観戦記として寄稿してくれましたので、ご紹介します。

観戦した時間は短かったけど、人生初のデフリンピックで、観ることができてよかったです。想像より広い会場で、いろいろな国の人がそれぞの手話で話しているところをみて、感動しました。

一人ひとりの卓球の技術が磨かれていて、「打つ」という動作にさまざまな工夫があったり、多くの練習をしたりしたのを感じました。デフ卓球は、補聴器なしでするので、反応が遅れたり、球の回転がわからなったりするということが起こるけど、努力して立ち向かっていくのがすごいなと感じました。自分も目標達成にむかって努力したいなと思いました。

会場の大型ビジョンに試合の様子が映し出されていて、そこに「カッ」などの音が文字ででていたことが印象に残っています。こんな音がきこえていたと知らなかったので、おもしろくて、マンガみたいに感じました。また、海外の手話をみる機会もあり、似ているところや全く違うところ、両方みれて面白かったです。

スロバキアの選手と交流する機会があって、楽しかったです。ウクライナが、メダル獲得数１位で、金３２、銀３９、銅２８、計 100 個で、ウクライナがとても強いことに驚きました。

デフリンピックを観戦して、いろいろな国の選手がいたことにもびっくりしましたが、きこえるきこえない関係なく、たくさんの観客の人がいたことも驚きました。大型ビジョンに出ていた、AI の手話がとてもリアルでわかりやすいところにも驚きました。

※観戦記の中の「音が文字で出ていた」というのは、富士通株式会社の「エキマトペ」（https://ekimatopeia.jp/）という装置です。２年前の本校の文化祭の二日展でもご紹介しました。二日展での様子は、R5 年 12 月号 337 号をご覧ください。

電話リレーサービス「手話リンク」

電話リレーサービスについては、本誌 No331 号でもご紹介しましたが、これまでの電話リレーサービスは利用者登録が必要でした。

令和７年４月より、電話リレーサービスの法人向けのサービスとして「手話リンク」の提供が開始されました。手話リンクでは、聴覚に障がいのある住民が自治体に問い合わせをしたい場合、カメラを搭載したパソコンやスマートフォンなどで自治体ホームページ上の「手話で電話する」ボタンをクリックすれば、電話リレーサービスの手話通訳オペレータを介して、音声電話の窓口に直接問い合わせることができます。

大阪府内では、東大阪市や八尾市で手話リンクのサービスが導入されています。

VRで体験する“聞こえない世界
― DEAF VR チャンネルの取り組み ―

＜聞こえ方は人によって異なる＞

「聴覚障害」と一口に言っても、その聞こえ方は人によって大きく異なります。

・全く聞こえない
・ある程度聞こえるが、音がひずんでいる
・特定の周波数だけ聞こえる

同じ風景でも、「聞こえる人」と「聞こえない・聞こえにくい人」では、世界の見え方や感じ方が全く違います。

＜DEAF VR の特徴＞

「DEAF VR」では、360 度の実写映像と空間音響を組み合わせ、さらに周波数の違いによる聞こえ方の変化まで再現しています。体験できるのは、以下のようなシチュエーションです。

・カフェでの会話
・家族との食卓
・レストランでの注文
・教室や休み時間の雑談

それぞれの場面で、聞こえ方の異なる 3 種類の体験が可能です。単なる「音を消す」体験ではなく、難聴によるコミュニケーションの困難や孤立感をリアルに再現しています。

実際に体験した人からは、
「おしゃべりの内容が全く入ってこないもどかしさや気持ち悪さが分かった」
「聴者としての体験が全く役に立たないと思った」
「ほんの少しの配慮（手話）で理解できるということがわかった」
といった感想が出ています。

YouTube でも体験動画が公開されています。ぜひご覧ください。
DEAF VR チャンネルはこちら
http://www.youtube.com/@deafvr1815

訂正とお詫び
前号で、東京デフリンピック 2025 で女子バレーボール日本代表が、「決勝戦でブラジルに勝利した」と掲載しましたが、決勝戦の相手は、「トルコ」です。
訂正してお詫び申し上げます。

チャレンジ！発音指導 ㉖

「チャレンジ！発音指導」シリーズの連載２６回目をお届けします。今号では、「サ行音」の指導方法について、ご紹介します。

バックナンバーについては、本校ホームページより閲覧可能です！「内容一覧」から、知りたいトピックの掲載号を、ご確認いただくことができます！

サ行音

前号で、サ行音は「さ・す・せ・そ」と「し」で発音要領に違いがあるということをお話しました。ですので、指導の際にも「分けて」教えるほうが習得しやすくなります。

「さ・す・せ・そ」の練習
息の確認：声を出さずに「すー」と息だけを出し、ティッシュを前に持って息の方向を確認します。
舌の位置：舌先が歯に触れていないか鏡で確認。歯茎に触れてしまうとうまくサ行音がでません。「近づけるだけ」がポイントです。
段階練習：「す」→「そ」→「せ」→「さ」の順に、出しやすい音から練習し、単語へ広げていきます。
「し」の練習
息だけの練習：声を出さずに「しー」と息を出し、口をすぼめて息が中央に集中する感覚をつかみます。
「す」からの誘導：「すー」と発音したあと、舌を少し後ろに引き、口をすぼめながら「しー」へ移行する練習もあります。
指導のポイント
「し」は「ち」や「ひ」に近い音で誤って発音されることも多いため、誤りの傾向を把握し、段階的に修正していくことも大切です。

「みみネット」編集部：
大阪府立中央聴覚支援学校　聴覚支援センター　担当：金森、只腰、萩原
〒540-0005　大阪市中央区上町１-19-31
TEL: 06-7712-1405（支援関係）／ 06-6761-1419（学校代表）
FAX: 06-6762-1800